

平成 30 年 7 月 31 日

乳幼児健診を受診された市民の皆様へ

神戸市こども家庭局こども家庭支援課

乳幼児健診等母子保健事業データを活用した調査研究について

神戸市は、神戸大学小児科と共同で下記の研究を実施します。そのため、乳幼児健診等の母子保健事業に関する既存情報を匿名化し、同大学へ提供いたします。

以下に研究の概要を公開いたします。本研究は、母子保健事業の向上を目的として実施するものであり、何卒ご理解いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

1. 研究課題

熱性けいれんの発生頻度とリスク因子の分析

2. 研究目的

熱性けいれんは、主に生後 6～60 か月までの乳幼児期に起こる、通常 38℃以上の発熱にともなう発作性疾患です。有病率は諸外国では 2～6%程度とされ、本邦では 1970 年代の調査で 8%と報告されています。

熱性けいれんの長期予後に関して、熱性けいれんの有無のみでは知能指数の差がないという報告がある一方で、熱性けいれん既往者ではてんかんの発症頻度が増加するという報告もあります。そのため、熱性けいれんの頻度を明らかにし、在胎週数や出生時体重等の発症に関連すると思われる因子について評価していくことが重要です。

本研究では、3 歳までの熱性けいれんの発症頻度を記述し、発症に関連する因子を評価することを目的とします。

3. 研究対象

以下の要件をすべて満たす方を研究対象とします。

- ① 2007 年 4 月から 2015 年 3 月の間に神戸市で出生した児とその母親。
- ② 神戸市の母子保健事業（妊娠届出、新生児訪問事業、4 か月児健診、9 か月児健診、1 歳 6 か月児健診、3 歳児健診）で情報を収集できた児とその母親。

4. 研究方法

3歳までのけいれん発症群とけいれん非発症群を比較検討することで、けいれん発症のリスク因子を検討します。神戸市が個人情報を削除した匿名化データを作成し、データの統計学的解析は神戸大学小児科で行います。

5. 個人情報の保護

氏名等の個人を直接特定しうる情報は、分析用データには含まれないため、個人情報を分析に用いることはありません。また、研究結果は対象集団の統計データとして報告されるため、研究成果を学会又は学術雑誌で発表する場合も、個人情報が公開されることはありません。

6. 研究に用いる情報の種類

神戸市の母子保健事業に関する既存情報のみを使用します。

- ① 妊娠届出書の記載内容
- ② 新生児訪問指導票の内容
- ③ 乳幼児健診（4か月児、9か月児、1歳6か月児、3歳児）の問診票及び健診票の記載内容

7. 予定研究期間

2018年7月31日から2020年3月31日

8. 研究組織

(1) 研究実施責任者

神戸市こども家庭局こども企画育成部こども家庭支援課（医務担当課長 三品浩基）

(2) 共同研究者

神戸大学大学院医学研究科内科系講座小児科学分野（教授 飯島一誠）

9. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。また、情報が本研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象から除外することができます。その場合でも神戸市母子保健事業に関する不利益が生じることはありません。（ただし、分析による統計データがすでに公表されている場合等、除外に応じられないことがあります。）

連絡先

神戸市こども家庭局こども家庭支援課母子保健係

住所 神戸市中央区加納町 6-5-1

電話 078-322-6513